

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各種留学生の受け入れ数を拡大する	→文学部における各種留学生受入者数	B	B			
2. 交換留学による海外派遣学生数を拡大する	→文学部から派遣する正規交換留学生数	A	B			
3. 学部の全専任教員数に対する海外派遣者数を全教員比半数以上、また客員教員を安定的に受け入れる（年間5～7名程度）	→年度別海外研究者受入数、専任教員海外派遣者数	A	A			
4. 外国人（ネイティブ）の専任教員数を増加させる（現行2名）	→文学部専任教員における外国人（ネイティブ）数	B	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いすれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 明示している ○ 明示していない (方針) 新基本構想の軸となる理念のひとつに国際化がある。文学部ではこの理念に沿って国際交流が行われている。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
	(説明) 日本文化研究および外国文化研究の拠点として、また国際的にも通用する高い水準の学問をめざし、日常的に教員・学生ともに積極的な国際交流が行われている。これは次ページのデータの安定した数値からも裏付けられる。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	38	42	41	43	48	49	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	31	42	48	48	47	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.2	1.3	1.2	1.3	1.4	1.5	・外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.9	1.3	1.4	1.4	1.4	—	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		人数	長期	人	32	53	59	50	47	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	61	82	61	100	78	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	1.0	1.6	1.8	1.5	1.4	—	・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		1.9	2.5	1.8	2.9	2.3	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	2	0	3	2	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	7	5	3	3	5	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	1	1	1	0	1	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	38	42	42	45	61	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	0	2	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	—	—	—	2.8	2.8	—		

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	昨年に続く経済的不況も一因として日本から派遣する学生数は短期・長期ともにやや減少したが、海外への派遣教員数は大幅に増加しており、順調な経過を辿っている。また新たにネイティブの教員一名を専任として迎えている。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	震災の影響により海外からの学生・研究者の受け入れは一時的な大幅減が見込まれる。そうした状況下で従来の方針を継承し、教員・学生の積極的な海外派遣を続けることが、今後の海外からの人的受け入れの素地形成のためにも必要である。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》	
★その他 (自由記述)	就職活動や家庭の経済状況などから留学に興味を抱きながらも消極的な学生が増える傾向が全国的に見られるなか、留学制度やさまざまな支援制度の存在などについて、入学時のガイダンスや人文演習などでの周知を継続的に行い、学生の意欲を喚起していく。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○留学生の受け入れや学生の海外派遣など順調に進展しています。震災の影響もあるかと思いますが一時的な現象にとどまると推察しますので引き続き努力されることが期待されます。

【学内委員】

○全体的にさまざまな施策の効果が上がっているようですが、海外からの受け入れ学生数および海外からの受け入れ教員数を増加させるような努力の継続が期待されます。

○国際的学問が多い学部でもあり、今後も続けていく姿勢は大変優れています。

○目標の着実な進捗に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・学生の受け入れと派遣、教員の受け入れと派遣は順調に拡大していることは評価されます。さらに努力が続けられ、国際交流がより活発化することが期待されます。

・国際交流については評価できます。文学部の独自性を出していくことが期待されます。

・設定された目標の進捗評価が「A」であれば、新たな目標の設定が必要かと思えます。

・改善すべき事項はないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(改善すべき事項7.02) に次の文を記入する。

「海外へ派遣する交換留学生の一部に、現地カリキュラムとのミスマッチが起きており、改善が必要である。」

★また上記を承け、(次年度に向けた方策(2)改善策)に次の文を記入する。

「留学前に学生の提出する履修計画を十分に吟味し、無理のない履修を行うよう指導を行う。」